

杉野圀明教授退任記念論文集の刊行にさいして

経済学部長 山 田 彌

杉野圀明先生の定年によるご退職にさいして、『立命館経済学』において退任記念論文集を特集し、ここに刊行することになりました。杉野先生は2001年3月31日をもって、定年により立命館大学教授の職を退かれます。先生は1970年4月に立命館大学経済学部にて助教授として着任され、それ以来今日まで31年の長きにわたって立命館大学及び経済学部の発展のために尽力してこられました。この間の先生の多大のご功績をたたえ、そのお人柄を敬愛し、ここにささやかながら記念論文集を編集・刊行し、先生に贈呈することになりました。

杉野先生は1936年に福岡県でお生まれになり、1954年に九州大学経済学部にて入学されました。1958年3月に同学部を卒業され(株)富士用紙店(現、日本紙パルプ商事)に入社されましたが勉強への熱意やみがたく、翌年同社を退社され九州大学法学部政治学科への編入学を経て、1961年4月には九州大学大学院経済学研究科に進学して研究者としてのスタートを切られました。そして5年後には大学院博士課程を単位取得修了され、引き続き1966年4月から4年間九州大学産業労働研究所助手として勤務されました。1970年4月に本学経済学部助教授に就任、76年には教授に昇任され、31年の間主として地域経済論・交通論の担当者として学部および大学院の教育に当たられる一方、研究面でも地域経済学・交通経済学に関する研究を主軸とされつつ、さらに価値論や所有論にまで幅を広げて研究を進めてこられました。

杉野先生のご研究の一端を紹介すれば、まず、地域経済学の方法論的研究を中心とした理論的なご研究であり、ついで交通立地を含む工業立地条件の研究です。前者については、初期の「プレブス＝リーグ経済地理学批判」(1966)や「近代経済地理学の形成と展開」(1969)以来、「地域経済分析の基本視点」(1991)に至る10編に近い論考を發表されております。また後者については、「産業立地論の方法について」(1970)、「経済地理学と産業立地論」(1970)から「九州における地域産業ビジョンの形成と工業立地の展開」(1989)にいたる諸論文があります。

ついで、地域経済研究者としてみた場合の先生の特徴はなんといっても、地域経済に関する理論的・方法論的研究とあわせて、地域経済のいわば現場に身を置いての綿密なフィールドワークをベースとした地域研究に一貫して取り組まれてきたことです。「北九州における企業立地と土地利用問題」(1972)、「伝統こけしの経済的研究」(1973)にはじまる九州および近畿を中心とする地域経済に関する数多くの調査・研究論文があり、これらの成果の一端が1990年の編著書『現代沖縄経済論』および1993年の同『関西学研都市の研究』として刊行されています。

これらの地域経済研究の傍ら、先生はまた経済学の理論的研究にも力を注がれてきました。価値形態の研究、とりわけ虚偽の社会的価値についての研究、所有の転化法則とくに貢納制社会論

についての研究であり、「所有形態の転化法則について」（1963）から「地代論争と虚偽の社会的価値」（1997）などに至る一連の論文があります。

1982年と1995年、先生は大学の在外研究制度によって世界各地の地域経済・交通事情の調査研究の旅に、もはや決して若からぬ身で単身赴かれ、直接わが目わが耳で世界各地の経済事情・交通事情に接してこられました。このご体験はさまざまな形で先生の研究・教育に生かされているように思われますが、その余滴として生み出された「ツタンカーメンが微笑むー現代エジプト紀行」（1990）から「ピバ・メヒコー現代メキシコ紀行（上下）」（1999, 2000）にいたる一連の旅行記は、どんな地にあっても庶民とその暮らしが好きでたまらない先生のお人柄が伺える楽しい読み物として好評を得ておられます。

先生は学会活動においてもご活躍をされており、経済地理学会幹事を経て現在は日本地域経済学会会長の要職を担っておられます。

教育の面では杉野先生は、ご担当科目の講義では理論的内容とあわせて現実の経済との関係をとくに重視することに留意され、国内外の地域経済事情についての豊富な知識を生かして学生の興味関心・問題意識の喚起に常に努力されてきました。とりわけご担当の地域経済ゼミにおいて地域調査の実践での指導に長年人一倍の努力を続けてこられました。『京都府網野町社会経済調査報告書』（1980）から『京都府加悦町社会経済調査報告書』（1998）にいたる一連の杉野ゼミ報告書はその成果であり、先生の厳しくも暖かい指導のもとで杉野ゼミからは多くの人材が育ち社会の各分野で活躍しておられます。また大学院教育においても少なくない研究者を育てられました。

学内行政の面では1980年度に経済学部主事、1992～94年度には立命館大学地域研究室長、96・97年度には経済学部長・同研究科長と要職を歴任されました。とりわけ、びわこ草津キャンパスへの学部移転に際しては、学部長として立派にリーダーシップを発揮され、新コース制の導入など学部専門カリキュラムの刷新、理工および経営両学部とのジョイントによる新コース（文理総合インスティテュート）の創設など、新たなキャンパスでの経済学部新展開の基本的骨格づくりの先頭に立たれました。

21世紀を目前にした今日、これからの大学における研究と教育、そして経済学と経済学部のあり方については広く深い問い直しが必要となっていると思われまます。また、21世紀を目指して経済学部の一層の改革をも考えなければならないことは言うまでもありません。このような時に、杉野先生のご退任になることは経済学部にとって誠に残念なことでありますが、これも時の定めとあれば致し方ありません。本学における先生の長年に及ぶご努力・ご貢献に対して立命館大学は名誉教授の称号をお贈りすることになっております。幸い先生はお元気であり、ご退職後も本学の特別任用教授に就任していただく予定ですから、今後とも先生のお教えを受ける機会は残されています。今後とも一層のご指導とご鞭撻をお願い申しあげるとともに、先生のますますのご健勝とご発展を心から祈念して、送別の言葉とさせていただきます。

2000年12月



杉野 罔明教授 近影